

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第2回)

- 1 日時 令和6年11月12日(火) 9:45~12:10
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 山口 慎二委員長、二見 隆江委員、村山 紀行委員、小松 明委員、
奥谷 婦貴子委員、小林 里実委員、住田 晶子校長、前田 潤子教頭、
徳山 敬倫総括教諭、

4 会議の内容

(1) 授業参観

(2) 協議

【地域と学校の連携について】

住田校長：運動会について、今年度より採点を復活させた。準備段階からの高学年児童の働く姿、生き生きとした姿を見て、「いずれ、わたしたちも！」という気持ちが育っている。もぐもぐタイムについてもご意見をいただきたい。

小林委員：もぐもぐタイムの準備はおにぎり、唐揚げ、ポテト、お菓子と簡単な物にした。保護者が見つからなくて困っている子がいたので、もぐもぐタイム前にお迎えのアナウンスがあるとよい。観覧優先エリアを設けたことで、場所取り合戦がなくなり、余裕をもって昼食準備し、子どもを見送ってから運動会に向かうことができた。

村山委員：コロナ前は前日から場所取りをされていて大変だったのが楽になった、と他の保護者も言っていた。どこで見ているも、自分の子どもの番になると優先してもらい、前列で見られるのがよい。

思いやりゾーンについては、たくさんの方が椅子に座って休めていたのがよかった。

二見委員：他校では、「弁当がないのがありがたい」「弁当がないのはさみしい」という意見に分かれる。情緒教育、親子交流としてもぐもぐタイムを負担にならない形で継続してほしい。

小林委員：今年度、駐輪場ボランティアをしたが、保護者が登校する時刻が遅かった。昨年のような正門前の行列もなかった。

住田校長：地域から、保護者は自分の子どもを参観したいだろうから、駐輪場の整理をしてあげるよ、というありがたい声をいただいた。回覧板を通して地域にボランティアの呼びかけを広げるのもよいと考えている。

徳山総括教諭：学校周辺での保護者のマナーが良かった。保護者にルールとマナーを守っ

てもらえたと感じている。

二見委員：採点があると、モチベーションが上がる。団結の結果が見えるよさがある。

昔は、吹奏楽を呼んだり、海老名音頭があったり、綱引きがあったりした。

村山委員：地域協議は復活しませんか？

二見委員：午後に学年種目にしたのは良かった。天候による実施判断について、延期の勇気をもってほしい。児童も先生も保護者も良い思い出となる行事に。

住田校長：はるにれフェスタについて、今年度より、学校とPTAとの共催とし、学校行事となった。ボランティアの保護者や応援団にお世話になった。

前田教頭：学校行事となったことで、地域とのつながりが広がった。

徳山総括教諭：地域の参加も協力も多く、児童の学びにつながった。

村山委員：イベントが盛り沢山で、全部回りきれないほどありよかった。体育館の4年生のボッチャが楽しかった。

小林委員：校内で回るため、児童が自由に回っても誰か大人がそばにいたので、危険がないよさがある。困ったら、知りたかったら聞くという経験ができていた。前日からどう回るかの作戦を立てていたのもよい経験。

二見委員：お茶のコーナーに思ったよりも地域の方も児童も訪れた。落雁をたのしみ、抹茶を飲むことは、日本文化に触れる貴重な体験となっていた。

野菜の提供については品薄な時期で難しかった。購入者は喜んでいた。

山口委員長：PTA 主催から主催方法が変わっても、はるにれフェスタでよい結果を残せた。PTA 組織がうまく転換できていくのかな。

小松委員：教師が仕事として取り組むことは児童にプラスであったと感じる。保護者の企画では内容が限定される。学校中心で地域を盛り上げていくよい取組になった。

住田校長：地域と学校の連携の際には、生活科、総合的な学習の時間、クラブ活動が外せない。各活動の取組についてご意見をいただきたい。

二見委員：農業は管理が大切。子どもを育てるのと同じで、成長過程が喜びとなることを子どもたちも感じてくれたら、と思う。

住田校長：地域の方へのお礼として、夏休み前に運営委員児童と地域のゴミ拾いに出かけた。2学期も参加者を変えて実施したい。

徳山総括教諭：児童が地域の専門家とかかわることは大切なことである。自分たちの思い出学習を進めていく体験は貴重である。

【全国学力・学習状況調査の速報について】

住田校長および徳山総括教諭より説明

【PTA 改革について】

二見委員：任意加入になるということは、加入の可否による違いはあるか。

山口委員長：PTA という組織は残るということですね。

小松委員：県 P は情報交換の場で意思決定機関ではない。情報交換の場はさまざまなところにあるので、県 P を抜けても問題ないだろう。

奥谷委員：PTA 本部を担う人が集まるか不安。中学校でも集まっていない現状。行事の優先座席を設けるとボランティアがたくさん集まったようだ。

小松委員：PTA 加入の可否の判断のもと本部をやるかどうかではないか。

村山委員：ボランティアをやりたい人はいる。協力したい人は継続して協力する。

小林委員：PTA の改革は、加入確認書を取るという情勢を受けて始まった。ボランティアをすると自分の子どもの活動を見る機会が増える。

徳山総括教諭：加入者はボランティアに参加することができる。

山口委員長：ボランティアをするには PTA 会員にならないとだめということなんですね。

奥谷委員：ありまっ子協力金について、フルタイムの仕事で、お金だけなら協力できるという層もある。

二見委員：先行で改革している今泉学区と有馬学区の地域感覚には違いがある。地域に PTA を潰したと思われないように、PTA をなくすイメージが先行しないようにしていただきたい。ボランティアの魅力をアピールし、加入したい！となるとよい。

住田校長：PTA について地域の方への周知方法を考えていきます。

(3) その他

次回の、学校運営協議会は、令和 7 年 2 月 3 日（月）9:45 から開催予定。